

# 銀の輔と手近な街



ん主役たるお婆ちゃんもいるから、コーヒージョップであんみつ置いてたりしちゃうところが可愛い。

巣鴨の地藏通り商店街を「お婆ちゃんの原宿」と言つのは、今の地藏通りを知らない人だけ。もう普通に観光地だもの。若い人も外国の人も中年層もやたら多い。だからお店もどこかが変わっていく。チェーン店のコーヒージョップやラーメン屋もあるしね。

でも普通におばちゃん服屋も赤パンツの店も、メニューいっぱい食堂付き団子屋もあるから面白いんだ。もちろん

店が変わるのにはもう驚かないけど、大好きなお煎餅屋さんで廃業したのはショックだったな。ちょっとご無沙汰してるうちに、気が付いたら更地になってた！周囲がビルだらけな街並みにボツンと残る木造家屋のお店は、僕の中では地藏通りの象徴だった。

辛うじて近所のお菓子屋さんに託されたお地藏煎餅と大きなガラス瓶を見るたび、ちょっと切なくなるのさ。



# 高野金次郎商店

親切第一 令和2年春なのに号

版元:東京ペンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大塚2-26-1

fax:03-3917-1949 RXM04421@nifty.com

協力:高島平電腦研究所、築地河岸工房

関連ウェブ:各種検索エンジンで「東京ペンギン堂本舗」検索するとポータルサイトに辿り着けます。http://shiosenbe.bo.jp/

STAY HOME!



お菓子と音楽、コーヒート  
本で、レッツ集めり!

# 銀の輔銀座千枚



橋公園ね。銀座なのに京橋なのは、昔は京橋区って住所だったから。なんてどうでもよくて、春には桜が咲き、秋には銀杏が紅葉することが大事だよ。今日はちよっと巨早すぎたかなあ。

ついでだから歌舞伎座に回つたら、そうだった…、お芝居は中止になったんだ。世の中は大変なことになっちゃった。もう呑気に銀座に来られないんだ。でも桜はちゃんと咲く。何があっても咲く。春は裏切らないって、誰かが言った。

銀座二丁目、高速道路の高架沿い、茨木のアンテナシヨップから銀座通りまでは、街唯一の桜並木。他所が咲き終えた頃に満開って、おっとりタイプ。その先、銀座通り元ル・テアトル銀座、元々テアトル東京だった「コナミの横、立派な桜があった公園が意味不明なビルに変身し、益々通りが殺風景になっちゃった。

昭和通りを渡って、白魚橋んどこまで行くと、これまでの寂しさを帳消しにするように、桜が咲く公園がある。京





# 東京プチアーカイブ

子供の頃に本郷の思い出はない。小学校の通学に使ってた都電十六番は本郷三丁目を通ってたけど、僕は同心町(後の春日二丁目)で降りてたし、後楽園球場に行く時は文京区役所前までしか行かないし、爺ちゃんちに行く時は大塚三丁目で七番に乗り換えての神保町。本郷には親類も友達もいなかった。かといって、遊びに行く場所でもないの。

そう思うと本郷行きスタートは大人になってからで、それも東大かも知れない。日曜日、自転車であらふら走ったり、程よい広場を見つけてテニスをしにいく場所が、僕の中の東大だった。街歩きの間はあくまでも上野浅草か神田界隈で、東大はリクリエーションスペース。



本郷三丁目の交差点近くに『明月堂』というパン屋があり、ここの甘食が好きだった。しっとりしてるけど、口の中の水分をみんな持っていられる古典的タイプ。大きめな二個セットを、古式床しい書体で明月堂と印刷されたマチのない白い紙袋に入れて、両隅を摘んでクルンと一回転。昔はよくそうやってくれるお菓子屋さんがあった。小さな店だけど、お客さんが絶えない人気店だった。その脇の細い一方通行の坂道が、後に何度と無く上り下りする菊坂だと知るのだ。

銀の輔を連れ歩くようになると、本郷は格好の撮影スポットになった。まだ東大構内に、独特の書体の巨大楷文ボスターがあった頃、九十年代前半。菊坂はもとより、一葉女史が住んだ長屋や、本郷通り沿いの古めかしい洋館、裏に入ると、木村伊兵衛の名作の舞台になった森川町の多叉路広場、武田伍一の不思議な建造物、そして鳳鳴館を始めとする旅館群。『みずす書房』を見つけた時は妙に嬉しかった。『ユージン』というジューズ屋があって、ジューズを頼むとおまけにコーヒーが付いてく謎のシステムの喫茶店だった。

『前沢』の可愛い看板を発見したのはもつと後。二〇〇二年と撮影データにはあるが、この時には確か無人で、今は墨田区に移転しているが、実は碁盤棋盤の世界では老舗の有名店だとは知らなかった。この洒落た建物と共に掃滅したのだろう。

本郷名物のひとつだった木造三階建の下宿を銀の輔と一緒に撮ったのも、同じ二〇〇二年。今思えば二十一世紀まであったことが奇跡だけど、撮影した時はそんなことも考えず、適当に二、三枚シャッターを押しただけ。正面玄関の趣もさることながら、坂道に沿って切り通しの如くそびえる羽目

板の外壁が圧巻だった。

本郷通りに軒を連ねる古本屋や喫茶店やフルーツパーラーは、散歩者ならずとも知る店ばかり。それにひきかえ西片界隈は、本郷より知名度が薄いつ、穏やかな街歩きが出来た。戦前建築も沢山残っていたけど教会や会社など、お店ではないので、歩く人も少ない。かつてはお屋敷町として漱石などの文人や学者が多く住んだという静けさは、本郷の住宅街とはまた違う風情を醸し出していた。

『明月堂』も、『かねやす』も、『近江屋菓子店』すらなくなったけど、方向感覚を感わすような道筋が、過日の風景を蘇らせてくれる。







高級句誌  
**俳人同様**  
*Haijin Doyo*  
 三朝庵梅里・筆  
 SAN CHO AN BAI RI

東京駅の八重洲口、巨大庇を皮切りに、オフィス街を突っ切って、幅広道路が一直線、八重洲通りのビル街も、再開発やら解体目前、重機そびえる元小学校、本の背表紙建物群も、立入禁止の囲われ物で、誘惑多過ぎ中央通り、銀座すくそは日本橋、石橋さんの美術館、越えりや再び工事中、昭和通りはビ

ぎゅう詰めの本棚ビルも見納めと 梅里  
 大通り地面の下も大通り 青の濃淡永代橋が仕切り役

ル溪谷で、並ぶ建物素っ気なく、眼の前高速高架下、その下までも道が伸び、その名麗し紅葉川、かつて川とは誰知るや、越えた先には八丁堀、証券会社に銀行に、与力同心どこにいる？時は移れど平成通り、昭和通りと頑張りますか、サラリーマンの憩いの地、鈴らん通りはランチの聖地、角に佇みしつとりと、趣

深きタイトルのビルも、カウントダウンの命とて、亀島橋から新川に、道もいつしか細身になって、霊巖島の面影を、追いたい気持ちを抑えつつ、いちご大福頬張って、ふと脇見れば羽目板も、年季入った木造家屋、心ばかりの縁を感じ、中央大橋渡りなほ、大川の先には永代で、高層マンション、佃島、路地裏長屋は夢の中、現の道は清澄通り、八重洲通りのどん詰まり。



八重洲通りの旅

コンクリの溪谷に潜む暮らし振り



懐かしきタイトルも消えて令和



## 北口番外編

### 東京大塚カウンター異聞 K'sバーの人々

「こんばんはペンギンさん、お元氣ですか？」ケース・バーの鐘ヶ淵さんから、定例電話がかかってきた。「こんちわマスター。今日も良い天気ですわね」「全く、呆れ返るような青空ですよ」「僕らを誘惑するような青空」「みんな遊びに行こう！って悪魔の囁きが聞こえそうですな」

大塚も、どうにも七面倒臭い状況に陥ってしまった。

＊ ＊ ＊

「ペンギンさんは休業に慣れましたか？」「ええ、なんとなくですけど。元々三月末辺りからお客さんが一気に減りましたから」「アナタんとこの上にあるホテルが、いち早く気休業しましたからね」「鐘ヶ淵さんはどうです？」「アタシはね、元来ものぐさとしてますから、休業大歓迎。若い時分に買い漁ったレコードを聞きまくってますよ。そうだった、鐘ヶ淵さんのレコードコレクションは年季が入ってるって言ってたな。

「でも大塚駅北口の工事は相変わらずですね」「元駐輪場だった三角地帯に、不思議なモノユメントの柱らしきものが出来ました」「タクシー乗り場だったところは、円形のフェンスで囲われて」「コロシアムでも作るんですかね」「ハッハッハ、戦いますな、スパルタカス的な男たちが」「角海老宝石ボクシングジムもありますし」「どっちにしても田舎臭い感じ、しますよね」「広場にモノユメントって発想がね」「でも大塚らしいと言えは言えます」。

「大塚ビルだったとしても、高層マンションで」「雲の上の石本喜久治先生も、さぞヒツクリしてることでしょいな」「後は階下に入るテナントが気になります。ファミレスとドラッグストアが来るのは決まりらしいけど」「まあ資本力のあるチェーン店しか入居できないでしょう」「となると、駅前の完成したビルに入る店が気になります」「ペンギンさんが待ち望む良きパン屋が来ればいいですねえ」。

「事情左様に、大塚駅北口の工事中振りは、過去に記憶がないレベルなのだ」「そういえば、千葉から野菜を背負ってくるおばさん、どうしましたかね？」「そうなんですよ！ずっと気になってるんですが、なかなか確認できなくて」「もうかなり高齢ですがからね、駅前再開発を機会に、引退したのかも知れませんがね。ある意味、大塚北口を一番定点観測してきた人が本当に引退したのだったら、サヨナラが言えなかつたのは、ちょっと悔が残る」。

「そういうや、アタシの店に行く道すがらにあったやぶそばが、無くなっちゃいました」。

「お入り戸やぶ閉店は、驚きというより痛かった。」「長年上野藪にいたご主人の蕎麦は、正統派できちっと美味しい。イ

力天が入った冷たい蕎麦は、僕もお気に入りだったんです」「店名は上野藪のご主人考案で、あの文字も書いたと聞いたことがありますよ」。

周辺は更地になり、恐らくマンションが出来たらうな」「そんなに大塚に住みたい人がいるんでしょうか？」「いるんですけど。というか、需要があるから供給するんですよ」「うし、そんなにマンションが出来たら住んでみようか？ってな、逆パターンもあるかもですよ、フフフ」。

そんな最中の新コロナ騒動が勃発だ。「ペンギンさんの周りの飲食店はどうです？」「伊勢元みたいにいち早く休業した店もあれば、今も頑張ってる店も少なくないってのが現状です」「夜はどうです？」「いや、僕は日が暮れ

たら外出しないので、夜の子が分らないんです」「アタシも一切外出しなくなつたもんで、日々の買い物で通る道以外の情報は全くありませんよ」「でも自粛休業した都電通り沿いの飲食店の店先を借りて、八百屋始めた人達が出て、ちょっと面白いです」。

「ほほう、考えましたなあ。アタシも覗いてみよう」「都電も空いてますね」「なんとなく在来線や地下鉄より、都電の方が安心してしまつたのは、気のせいでしょうか」「フフフ、気のせいでしょうね。でも、あののんびり加減を見るとホッとしますよ」「焦るな、慌てるなつてね」。

＊ ＊ ＊

鐘ヶ淵さんとの定例電話雑談大会は、一体いつまで続くんだろう？

内散歩できればと作ってみました。★配布協力感謝・池之端・古書ほうろう、吉祥寺・ブックスルーエ、雑司ヶ谷・旅猫雑貨店、法善寺横丁・洋酒の店路、築地・ふげん社、浅草・珈琲アロマ。本駒込・青いカバ、平井・平井の本棚。大塚・ペンギン堂雑貨店。